

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおりました。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司 俵屋吉富

本店

京都市上京区室町通上立売上ル

電話 (075) 43212211

烏丸店

京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 (075) 43213101

圓明

平成三十年

正月号(第一〇九号)

大本山相国寺
相国会本部

慶春

平成三十年 戊戌

◆表紙説明

「鹿苑寺 雪の金閣」

四季を通じて、また時間によって様々な表情を見せる鹿苑寺の舍利殿「金閣」。
冠雪することで鏡湖池に立つ金閣は、いつそう金箔の放つ黄金色が引き立ち、我々を魅了してやまない。昭和三十年（一九五五）再建、昭和六十二年（一九八七）修復。

写真撮影◎柴田明蘭氏



まるにくん © 2018相国寺

歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底

平成三十年 戊戌年

歳旦

八十五年、洛家に住す

平常淡飯、又た麓茶

傍人若し、吾が遮裏を訪ねば

一朵總に開く、老樹の花

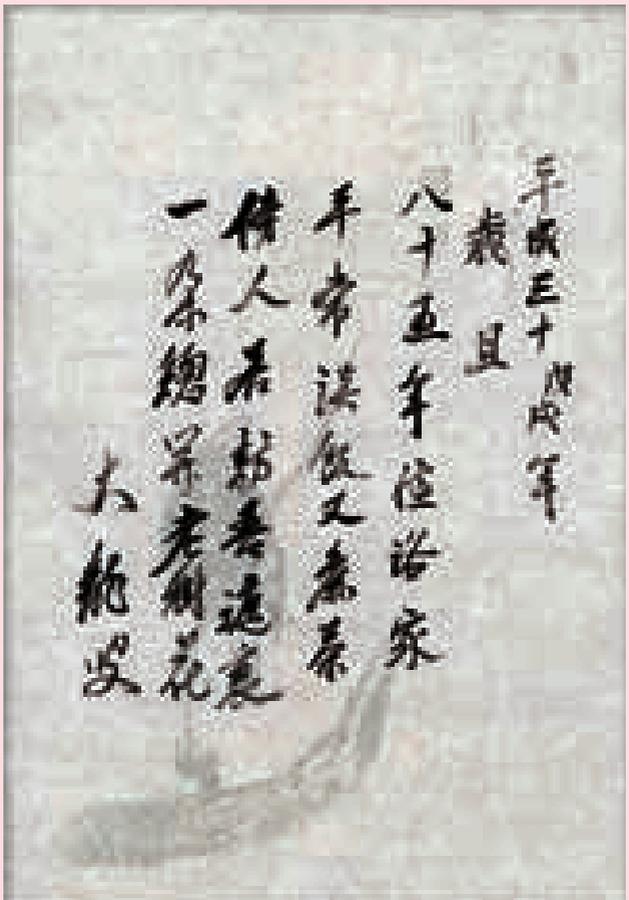
大龍叟

八十五年、京に住んで、

つね日ごろ、枯淡に過ごしている。

もし人が、君はどうしているかと問えば、

老梅が今年も開いているごとく、相変わらずだ。



※語注 一朵……花のひとつ。一輪の花。



既存の樹木に包まれた建物となるよう意図しました。



2階講堂の内観。スリット窓を介して周辺の瓦屋根や庭の緑が見えます。

3



2

(詳細は、本文20ページ、本山だより55ページを参照)

本山寺務棟増築落慶

本山寺務棟増築工事の変遷



⑤ 講堂上部の鉄骨トラス完了



① 着工前



⑥ 瓦葺き完了



② 既存建物解体完了



⑦ 外壁しっくい塗り完了



③ 基礎コンクリート打設完了

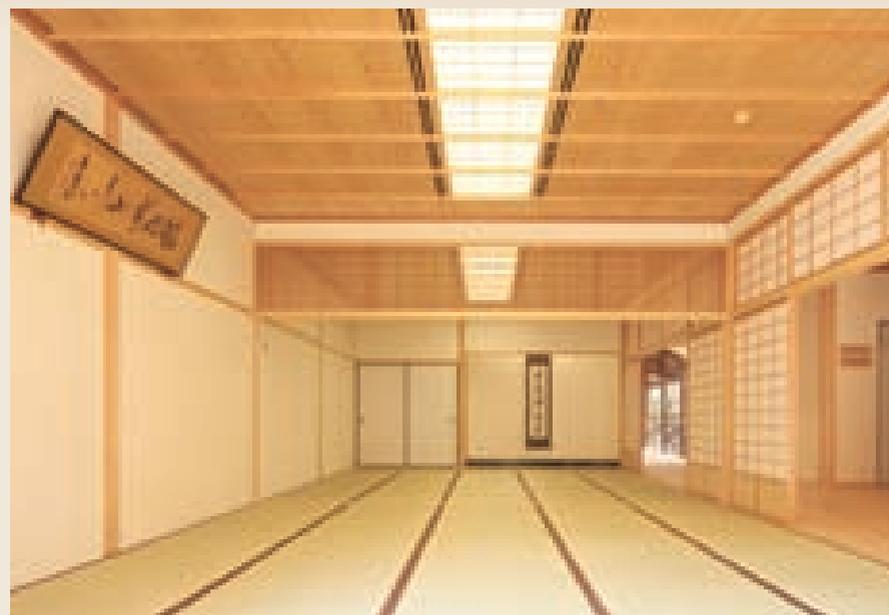


⑧ 寺務棟増築完成



④ 細長い犬走りから小型重機入場

写真撮影◎株式会社竹中工務店



1階広間の内観。12畳半二間の広間ですが、その境界の欄間を繊細な縦格子とすることでそれぞれを独立させながらも緩くつなげることを意図しました。天井は竿縁天井とし、中央部を照明と空調を一体化した光天井としました。



広間の見返し。障子と光天井の組子の意匠が呼応します。

謹奉賀新年



管長 大龍窟 有馬頼底

檀信徒の皆様、新年明けましてお目出度う存じます。

昨年の海外巡教は、ローマにあるバチカン市国と北朝鮮の
靈通寺参拝でした。本山では、寺務棟が老朽化していて、秋に
は新規増改築が出来、会議室、小ホール、寺史編纂室、寺務所等
多目的に使用が可能となり、本山寺務もいよいよ多望化して、
大いに活動することが出来ます。

さて、昨年十一月に、バチカン市国を巡礼してきました。
バチカンはカソリックの総本山であり、その荘嚴な伽藍と
壁画は東洋には無い一種独特なものであります。訪問時には、
まずローマ教皇総代理のアンジェロ・コマストリ枢機卿による
ミサが大聖堂で行われ、そこでマイストロの西本智美氏に
よる荘嚴なミサ曲の演奏があり、日本からの大勢の合唱団に
よる合唱も見ものでした。

その場にて私の発言が許されて、壇上で約五分間「普回向」
一節を話しました。これは、仏教者による初めての発言であった
らしい、と後でうかがいました。

翌日にはいよいよフランシスコ・ローマ教王のミサとなり、全国から三千人の信者が集いました。ミサ後、代表者十人ほどが教王と対談させていただき、その温厚なお人柄に触れ、感動ひとしおでありました。そして国際的な紛争は、対話での解決が重要と語られました。

バチカン市国から帰国後まもなくして、北朝鮮にも巡礼にしました。私がなぜ北朝鮮へ行くのかというと、第二次世界大戦前に、日本国民はすべての抵抗手段を奪われ、ズルズルと侵略戦争の泥沼に巻き込まれていった苦い経験を持つからです。その侵略から一番の被害を受けたのは、朝鮮半島でありました。後の朝鮮半島の分断は、日本の責任でもあります。その朝鮮半島平和統一を願い、微力ながら努力しているところでもあります。

今回で四回目の訪朝でしたが、朝鮮天台宗開祖の大覚国師（義天）ゆかりの靈通寺へ参拝してきました。その大覚国師が翻訳された「高麗版一切経」は、後に足利四代將軍義持公の求めに応じて請来され、現在相国寺山内の藏経楼に、四千数百巻が納められております。これこそ、日朝国交の良い証であります。

どうか皆様の当たる戌年に幸あれと、祈念いたします。

年頭御挨拶



宗務総長 佐分宗順

本派寺院、相国会、檀信徒の皆様、そして『円明』の読者の皆様方、明けましておめでとうございます。

昨年九月、建設中であつた新寺務棟増築工事が無事完成し、七日落慶式を営みました。この新寺務棟の構想は、私が財務部長を命じられた平成二十三年、前職より引き継いだ計画の実現に向け資金の積立を始めました。平成二十六年、宗務総長を拝命し、翌二十七年相国寺東京別院の新方丈落慶の後、この新寺務棟の建設に向け、竹中工務店と毎月の建設会議を開始、平成二十八年十月五日達磨忌法要後起工式、解体工事が始まりました。平成二十九年四月八日誕生会に上棟、九月七日、約一年の工期で無事落慶式を迎えることができました。

新寺務棟は従来の寺務棟と一体化した木造二階建て（一部鉄骨）で、一階は大広間（しょうこうあん 韶光庵）と相国寺史編纂室、二階に六十人収容可能な講堂（けいほうけん 桂芳軒）と

書庫、厨房があり、旧寺務棟二階につながっています。

今までの相国寺史編纂室は、承天閣美術館二階にあつた資料倉庫の一部を改造した、あまりよい環境とはいえない場所で作業を余儀なくされていましたが、これからは新しい寺務所で作業がはかどることになると期待しています。

相国寺史編纂室は、臨濟宗や相国寺の歴史の研究を通して、現在の我々の立ち位置を明らかにし、これからの相国寺を見通すための重要な場所であります。活躍を期待したいと思います。そして二階講堂（桂芳軒）は、研究成果の発表や様々な研修会の会場として活用させていただく予定です。

また、承天閣美術館におきましては、副館長に元正木美術館館長の高橋範子氏を迎え、学芸統括として学芸員の養成、指導に当たっていただき、収蔵品の整理、紹介、展示企画等、美術館のこれからの発展に向けて尽力していただけることになりました。

承天閣美術館は、有馬頼底管長が鹿苑寺住職であつた村上慈海長老に、相国寺と鹿苑寺、慈照寺をはじめ塔頭寺院の宝物を一同に収蔵し、展示する施設の必要性を説き、資金提供を受けて実現した美術館です。有馬館長の長年の努力によって、承天閣の知名度は上がり美術館として充実してまいりました。今後、相国寺の施設として一山をあげて護持、発展させていくことが我々の責務で

あります。高橋範子氏の新しい講座も予定されておりますのでご期待ください。懸案であります、相国寺規則の改正については、現在素案作りを進めております。教団の自治規範である相国寺宗制や、法人規則としての相国寺派規則などは、多くの本派寺院住職方にとってあまり触れる機会のないものだと思います。ましてや条文の多い宗教法人法の知識は、私も含め十分持ち合わせているとはいえないのが実状ではないでしょうか。宗教法人法は、憲法の信教の自由と政教分離原則に基づき設けられた、我々宗教団体に關する法律です。宗教者は、常に関心を持って注意していなくてはなりません。この機会に調べ直していただければと思います。

法人の歴史的起源について経済学者の岩井克人氏は、中世ヨーロッパで僧院や大学やギルドといった団体が、必要に迫られて法人という形態をとるようになったと述べられています。

たとえば、一人のお坊さんに信奉した信者や領主や権力者が、そのお坊さんに土地や建物などを寄進したとしても、そのお坊さんが亡くなったらその権利は、個人に与えられたもので消滅してしまうことになり、その教団は維持できなくなります。こういう事態を避けるため、集団を人としての資格を持つものと見なす法人という考え方が出てきました。法人は基本的に社会的存在です。

僧院内部の関係を維持するための自治規範とは別に、対外的関係を安定させるために法人が必要だったのです。

宗教団体は、世俗と一線を画した存在であると同時に社会的存在でもあり、俗世と離れて存在することはできません。宗教の社会的立場を規定したこの規則を、もう一度関心を持って見直していただきたいと思えます。

現在の相国寺派宗制、相国寺派規則などは、昭和二十七年に認証された後、数回の一部改正を行っていますが、昭和六十年以降改定されておりません。大きく変わりゆく社会情勢の中で、私たちの規範をもう一度見直すことが必要になってきました。

近年、問題になっている僧侶の資質低下、無住寺院や兼務住職の増加、不活動法人の処理の難しさなどを考えると、規則の改正によって寺院運営の未来に備える必要があります。本年宗議会には、改正の主要な目的と要旨の提案をしたいと考えています。

新しい年を迎え、多くの課題を抱え一步を踏み出しましたが、無理をすることなく、余裕を持って、着実に成就していきたいと思えます。皆様のさらなるご支援をお願いいたします。

本年も平和な実り多き年でありますことを願い、新年のご挨拶いたします。

年頭御挨拶



相国會會長 片岡匡三

有馬頼底底管長猥下をはじめ、本派寺院御住職、相国会会員、檀信徒のみならず、新年おめでとうございます。御健勝のことと拝察いたします。本年も、相変りませず、よろしくお願い申し上げます。

昨年は、異常気象が続き豪雨によって北九州、関東、北海道と各地方で甚大な被害をもたらしました。被災されたみなさまの、一日も早い復興を祈念いたします。

夏の終わり、信州から上高地を散策しました。河童橋を渡り梓川の清流にそって原生林を縫うようにして歩きました。雄大な大自然の中での一時、心が洗われました。帰京して奥嵯峨を巡りました。上高地とは違った静寂な自然がありました。ところが渡月橋周辺から天龍寺の境内にかけて観光客の多いのに驚きました。今や「嵐山銀座」です。人が溢れ、喧噪の真只中。小倉山の麓の「藪沓」は求めても無理のようです。

大本山相国寺「承天閣美術館」は、常に清浄、静粛。芸術鑑賞にふさわしい環境が整っています。訪れる人も古人の墨蹟を拝見し、伊藤若冲画伯の遺作に感動し、静かに鑑賞しておられます。今や魅力度「ナンバーワン」の京都です。関係者のみなさんだけではなしに京都人みんなでこの環境を保護し整備に努めなければいけないと痛感しています。

十月二十一日、開山夢窓国師毎歳忌法要が厳修されました。地方の教区から例年通り敬虔な信徒の皆さまが大勢参拝されました。式典終了後、全員で「般若心経」を諷誦しました。

ところで、昨年は、白隠慧鶴禅師没後二百五十年遠諱法要が厳修されました。禅師は「白隠禅師坐禅和讃」で禅の「真髓」を平易な日本語で表現し、信徒一同を覚醒に導いて下さいました。

私は「般若心経」に引続き「白隠禅師坐禅和讃」を信徒全員で諷誦してはいかがかと思えます。尊い仏身を自覚して、新たな「気概」と「感動」をもち帰るに違いありません。是非とも「坐禅和讃」の一同での諷誦が叶いますよう御検討の程、よろしくお願いいたします。

浜までは海女も蓑着る時雨かな

瓢水（江戸の俳人）

ある本を読んでいて偶然この句に出会い、いい句だなあと思いました。「浜」近くなってから、わざわざ蓑を着て身を庇う心遣い、「たしなみ」が美しいと思えました。今や、ぐっと「浜」に近づいた我が身。「余生」を生かされて生きていることへの「感謝」と、「今」を「誠実に、丁寧に」生きていくと改めて思いました。

最後になりました。

有馬頼底管長さま。じつと管長さまのおそばに立っているだけで、不思議と落ち着き、心が洗われる思いがします。柔らかい自然体の「ほほえみ」のせいでしょうか。深謝です。御健勝祈り上げます。

相国寺本山寺務棟増築について

株式会社 竹中工務店 二宮卓也

◆はじめに

相国寺本山では、寺務機能の拡充を目的とし、寺務棟増築工事を平成二十八年十二月九日から平成二十九年九月一日の間行い、無事竣工を迎えました。本稿では、建物の概要及び設計で考えたことをご報告致します。

◆建物の概要

構造／木造、階数／地上二階、延床面積／四三九・七八㎡、
九人乗エレベーター一台設置。
一階…広間(十二・五畳×二間)、編纂室、男子・女子更衣室、倉庫。
二階…講堂(約五十八畳)、配膳室、書庫、倉庫。
併せて、既存寺務棟二階及び既存西側拝観者用便所を部分改修しました。

◆設計主題

敷地を訪れ、本山の皆様と打合せさせて頂き、この場所にふさわしい増築棟とは何かを考えました。六百年の歴史を持つ境内の深い静寂と影、長い時間をくぐり抜けて来た木造建築や樹木に敬意を表し、周辺環境との調和を図ることを設計の基本と考えました。そして、この地に融合して静謐で深い落ち着

きを持つ、ずっと前からそこにあったような建物にしたいと思い、以下を設計主題としました。

- ・ 大屋根や木架構により深い陰影を生み出す
- ・ 建築と環境の調和
- ・ 伝統と現代の融合と対比

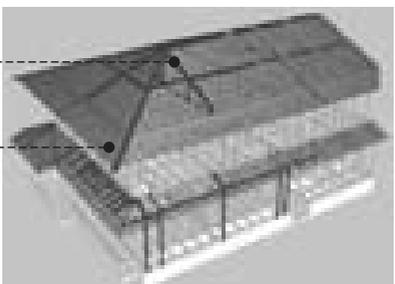
◆設計上の課題と解決策

設計主題を具体化する際、敷地形状や周辺建物の現況から、設計上の課題がいくつかありました。最終的な仕上りの姿や工事の進め方、工期、コストを総合的に検討し、本山の皆様と共に、ひとつひとつの課題に向き合い、答えを見つけ出していきました。

- ①(課題) 建築地への通路が細長く(幅1.5m×15m)、大型重機が近寄れず、
搬入・楊重可能な資材の長さや重さに制限が生じます。
(長さ4m、重さ300kgまで) ←

(解決策) 部材長さ、重さ、圧縮・引張材、部材同士の継手部納まり等を考慮の上、柱と梁は木造、屋根トラスと構造垂木は鉄骨造というように部位毎に材質を分けたハイブリッド構造設計を採用。

- ②(課題) 増築棟と周囲の伝統的な木造建築(方丈・庫裏・大書院)が繋がって一体建物となっており、既存木造建築に現在の建築法規に則った改修が発生する。



10m 無柱空間の
上部:鉄骨トラス梁
2m 跳出し屋根:
鉄骨垂木

木と鉄の
ハイブリッド構造

[構造体モデル]
—— 鉄骨
—— 木材



深い静寂と
影を持つ境内

(解決策) 各官庁と協議を重ね、増築棟と既存木造建築を独立させ、法的影響を与えない設計方法としました。

③(課題) ②の課題を解決する(既存木造建築に法的影響を与えない)代わりに、増築棟の開口部に法的制限が生じます。

増築棟の窓には防火認定建具しか取り付けられません。通常はアルミサッシに網入りガラスを入れた建具を設置しますが、本計画では周辺建物と馴染みません。

(解決策) 増築棟の窓は周囲の既存木造建築と調和を図るため開口部は1・2階とも木製建具とし、室内側に防火認定を受けた常時開放式シャッターを設けました。

視覚的に方丈、庫裏、大書院と連続する1階の廊下廻りを鉄骨を内蔵する化粧木による真壁構造、現代的な機能を持ち新たにポリウレムを付加された2階を漆喰による外壁耐火の大壁構造とすることで、伝統と現代の融合と対比を意図しました。

◆工事関係者

この度の工事では、多数の方々のご協力を頂きました。ここに主要な関係者の名前を記します。

設計・監理	(株)竹中工務店	ガラス工事	石村硝子(株)
施工	(株)竹中工務店	塗装工事	イーベック(株)
木工事	朝日木材工業(株)	内装工事	(株)杉原商店
	(株)木栄		アサヒハウジング(株)
掘削・地盤改良工事	扶餘建設工業(株)	畳工事	高成産業(株)
型枠工事	中建(株)	家具工事	(有)藤井豊店
鉄筋工事	(株)朝日ビルド	石工事	(株)イトーキ
鉄骨工事	濱名建設工業(株)	タイル工事	(株)大東マール
左官工事	南見工業(株)	雨水排水工事	(有)杉澤タイル
瓦工事	(株)寺本甚兵衛製瓦	造園工事	明清建設工業(株)
防水工事	(有)スギテック	電気設備工事	長岡造園
板金工事	(有)中邑板金工業	衛生空調設備工事	東邦電気産業(株)
金属工事	(株)ユーテック	昇降機設備工事	影近設備工業(株)
建具工事	YKK AP(株)		(株)たけびし
	三和シャッター工業(株)		

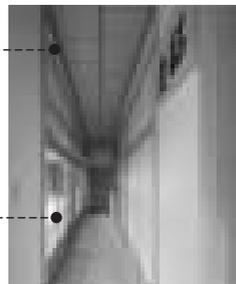
◆おわりに

今回の増築工事によって生まれた建物が使い継がれることで、宗派全体が益々充実し発展する一助となれば、工事に携わらせて頂いたものとしてこれに優るよろこびはございません。

本工事に関わりご協力賜りました皆様、さらに、最後までご指導頂いた佐分総長はじめ本山の皆様、この場を借りて深く御礼申し上げます。



方丈、庫裡と連続する1階南廊下の開口部。既存建築と調和する真壁構造の伝統的な意匠ですが、法的に準防火構造とする必要があるため、見付5寸の木柱に100角の鋼管柱を内蔵しています。



室内側に防火認定
常時開放式シャッター設置

屋外側に伝統的な意匠の
木製建具設置

1階南廊下の開口部。延焼線がかかるため内部に防火シャッターを設け、木製建具の伝統的な意匠は踏襲しました。

有馬管長 バチカン市国訪問 ローマ教皇と謁見

◆バチカン市国 訪問日程

二〇一七年

十一月二日 日本出国・空路イタリア・ローマへ

十一月三日 在バチカン日本大使館にて、中村芳夫特命全権大使の招きにより晩餐会。

ローマ教皇庁コマストリ枢機卿・ハンス音楽財団ハンス理事
長らと交歓。

十一月四日 サンピエトロ大聖堂にてローマ教皇の名によるミサに参列。
その際、合同ミサとして祭壇にて仏教者として共に平和を
祈るメッセージを伝える。

十一月五日 午前、サンピエトロ大聖堂にて、ハンス音楽財団の招きによ
り、聖歌隊による合唱コンサートに参列。

午後、サンパオロ大聖堂にて西本智美指揮イルミナート
交響楽団によるモーツァルト「レクイエム」演奏に参列。

十一月七日 バチカン教皇庁コマストリ枢機卿と約一時間「地域紛争と
平和」について、キリスト教、仏教の果たすべき役割を意見
交換する予定が、急きょキャンセルとなる。

十一月八日 午前十時、サンピエトロ大聖堂正面段上において、教皇によ
るミサの後、フランススコローマ教皇と謁見。握手を交わし、
通訳を介し、会話がなされた。

(有馬)「世界における紛争は至る所で起こっており、悲し
むべき事態であり、一刻も早い粘り強い対話による
平和を願うばかりです。」

(教皇)「その通りです。仏教の指導者である有馬師と、共に
平和の為に祈りましょう。」

十一月九日 帰国の途につく

(巻頭8ページ 有馬管長新年挨拶文参照)



フランススコローマ教皇と会話を交わす有馬管長

フランススコローマ教皇への挨拶文(全文)

ローマ教皇殿

フランススコローマ教皇様に於かれましては、御清
栄の御事と存じ上げます。

さて、私、有馬頼底は仏教各宗派の大本山が集中する
京都の仏教会の理事長を三十年以上勤めさせていただ
いており、この間広く各国各宗教団体と交流を重ねるこ
とを世界平和の使命と考え、積極的に活動して参りました。

仏教の根本は、不殺生戒ふせつじょうかいであります。お釈迦様は、そ
れを戒律の第一に掲げています。生きとし生けるもの
を慈しむということ、人と人が殺しあう戦争などしては
ならない。この教えを、世界に広げるために微力でも力
をつくすことが、仏教を説く者のつとめだと思ってきました。
だから私は戦争反対を貫き、日本の憲法第九条は、
日本が世界に誇る不戦の誓いである、と思っております。

第二次大戦後、今から五十年前、一緒に訪中した人の
中に元陸軍中尉がいました。宜昌(湖北省)というところ
で断崖を見下ろしながら、おいおい泣くんです。「なぜ」
と聞くと、彼は「戦争中、この断崖から上がってくる中
国の兵士に毒ガスを浴びせ、大勢殺した。」という。泣き
やまない元中尉に、私は「今後、絶対に戦争をしないと
みんなて言っていきましょう。それがあなたの生きる

道ですよ。」と言いました。

戦争というものがどんな結果を招くか、日本の過去
の戦争や直近のイラク戦争、そして今、世界各地で展開
されるシリアをはじめとする地域紛争の悲しい現実を
直視しつつ、互いが粘り強い対話と交渉を重ねて、平和
解決の道を必死に切り開いていくしかないことを痛感
しております。その意味に於いて、私は今緊張の高まる
北朝鮮を四回訪れ、仏教関係者と対話を重ねる中で、
彼らも決して戦争を望んではいないことを実感してお
ります。

今、世界でアメリカと北朝鮮の対話を求める声
が強まっています。それ以外の道はないと存じます。

世界情勢が不安定な中、私にとって宗教交流を通し
て教皇様との深い対話の実現出来ればこの上ない喜び
であります。そして、日本、中国を中心にアジアの仏教
国にも、世界平和の連帯を呼びかけたいと存じます。

合 掌

二〇一七年十一月一日

京都仏教会理事長

相国寺派管長

金閣寺 銀閣寺住職

有馬頼底

ぶつ どう てい かん 仏道定款

大通院
相国寺専門道場師家

小林玄徳

佛道定款

—YOUR GUIDE FOR
DEATH EDUCATION—

第七条 折り箱

子煩惱、親心。

親になって誰も湧き出す想い。

「今日の祝宴の折り箱は、

このまま手を付けず持ち帰って、

悦ぶ子供達に食べさせてやりたい。」

持ち帰る折り箱。

親から子への親心が胸に染みる。

溢れる家族の幸せ。

子供達の歡喜の叫び。

笑顔一杯の団欒

天麩羅に、筑前煮に、金団きんとんに。

玉子焼に、焼魚に、エビフライに、蒲鉾に。

「ホラ。皆で分けて食べないとだめでしょう。

お兄ちゃんばかり好きなもの食べてだめでしょう。

おばあちゃんに初めに食べてもらいなさい。」

忘れてはならない親心への恩。

家族家庭ほど大事なものは無い。それでも……。

樹、静かならんと欲すれども風止まず。

子養わんと欲すれども親待たず。

親孝行のしたい時分じぶんには親はなし



「仏心」 親心・老婆親切・願皆共仏道成

「仏法」 四摂法

昨年平成二十九年九月七日。本山寺務棟増築落慶法要圓成して、祝斎となった訳であるが、この出斎が折り箱（おひらこば）であったのである。寺庭もなく、子供もない私には当然ながら折り箱に手を付けずに持ち帰って家族の為に……などと考えるはずもなく、早急に普段の精進料理の御膳とは違う在家向きの折り箱は、大変美味しく私の胃袋に収った訳である。

その時、私の右側に座して居られた管長様を拝見すると、折り箱に手を付けられずに、お持ち帰りの覚悟で臨んで居られるのに気付いたとき、管長様は大光明寺のお手伝いの中大路さんのお心遣いであろうと察知したのである。管長様が岳林寺の小僧として預けられる前は、どれ程のご両親の暖かい親心に育まれておられたかをつくづく感じ入った次第でありました。

さて、この第七条の構想を練っていた頃のことである。四摂法（ししよくほう）の記事が中外に載って居りました。「東日本大震災当初に支援物資を配った九州の青年僧の話を紹介。青年僧が物資を配ろうとしたとき、一番前の女兒が寒さに相当している。と空腹でガタガタと震えていたため、とっさにグミをあげた。女兒はそれを口に入れようとした瞬間、後ろに待っている大人たちに気付き、一粒ずつ分けて歩き、最後に自分の一粒を食べた。

その様子を見て涙が止まらなかった青年僧はへ支援に行つて助けようとしたら、小さな女兒の菩薩様に会つて、私の方が濟度された。これは四摂法の第四、形を変えて衆生に近付き衆生と事行を同じうして摂化していく教えに相当している。

家庭内の親心から友人知人への老婆親切へと発展して、遂には皆共に仏道を成ぜんことを願ひ実践していく仏道修行者の本懐を進めてまいりたいものでございます。

最後に父母恩重經十大恩を脳裏に留めておきましょう。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 一、懐胎守護の恩 | 二、臨生受苦の恩 | 三、生子忘憂の恩 |
| 四、乳哺養育の恩 | 五、乾廻就湿の恩 | 六、洗濯不淨の恩 |
| 七、嚙苦吐甘の恩 | 八、為造悪業の恩 | 九、遠行憶念の恩 |
| 十、究竟憐愍の恩 | | |

特別
寄稿

テララワダの風

〈後編〉

第四教区 潮音院住職 鈴木元浩



管長様の折り箱が、多くの仏法を伝えて下さり、四摂法の実践のお姿そのものでございました。折り箱が出齋に出されるにつけても、今は既にご両親のない方々も、子供の頃の父・母の、嘔苦吐甘えんくとかんの折り箱の有難い親心を思い起して感謝の涙を捧げて頂きたいと切に願うところです。

出典 「韓詩外伝」風樹ふうじゅの嘆たん 樹、静かならんと欲すれども風止まず、子、養わんと欲すれども親待たず。往ゆきて見るを得べからざる者は親なり、墓石に布団は着せられず。

『円明』第一〇八号15頁末尾に左記のとおり誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

お詫びと訂正

(誤) として『動中静』を合点した後に『動中静』が生き生きとして用もちき出して来る訳であります。

(正) として『動中静』を合点した後に『静中動』が生き生きとして用もちき出して来る訳であります。

前回は、日本のお坊さんである私が、テララワータの仏教国であるタイに来た経緯をお話しました。どうすればタイでお坊さんとして認められるか、身なりから考えました。恰好は雲水時代の麻衣で草鞋姿。そして律に従った生活送ることとなりました。

タモ寺のスケジュールをいいますと、自然の岩でできた山奥にあるクティという僧坊から、朝四時の朝課に間に合うよう真っ暗の中、懐中電灯の灯りのみで、白いお堂まで歩いていきます。お堂で一時間の瞑想をしたあと、約三分の朝課。パリー語という古代の言葉でお経を読みます。今回はお坊さんとして上座に座らせていただきました。この白い立派なお堂、実はある実業家一人だけの寄進で建てられたものだけ



クティの中



優婆塞が食事を提供しているところ

うです。その他の建物もすべて信者さんの寄進です。規模が違いますね。お坊さんが建てた純粹なお堂はといいますと、前回紹介した布薩堂だけで、外見はただ板を貼って屋根がついただけの質素な建物です。これも律の規定に基づいて境界を設け、そこに建てられています。

朝課が終わり、六時から托鉢です。やはり鉄の鉢は使わせてもらえないので、今回も頭陀袋です。托鉢は三組ほど分かれて、毎朝約3km離れた集落まで必ず歩きます。自給自足はない。ここに、本来一〇〇%布施に頼るといいう佛教の教えがうかがえます。

托鉢後はいただいた食物を、寺に従事している在家の方が調理し、それをお坊さんたちは鉢に入れて食べます。この在家の方々をウパーサカ(優婆塞)といい、彼らはお坊さんのできないことをする役割を担っています。できないこととは、律で禁止されていることです。



ジャックフルーツ

お坊さんは直接お金に触れたり、食物を調理することは禁止されています。こうしてウパーサカに助けられ、初めて口にできるのです。私たちはそのあとで残り物をいただきます。残り物といってもかなり豪勢です。カレン族はベジタリアンなので肉料理はありませんでしたが、野菜、果物などを使い、タイ料理特有のスパイスの効いた味付でとても美味しいです。タイは暖かい国なので、果物が豊富です。パイヤなんかは普通に寺の境内に生っており、棒で突き落として毎回食後に食べていました。私の苗字は鈴木というのですが、芸能人にはパイヤ何某という方もおられますが、私が本物です。そして、様々な果物の中の一つにジャックフルーツというのがあります。大きさは人の頭ほどで、重さは5kg以上、表皮は硬くて小さなギザギザで覆われています。これが熟して高い木の上から落ちてくるのですが、当然危険です。気の毒にジャックフルーツに当たって亡くなる人もいるそうです。しかし外見はゴツいですが、中身はとてもジューシーで、例えるとバナナとパイナップルを掛け合わせた瑞々しいカスタードのような味わいです。この美味しさに私はハマったのですが、味もさることながら、お寺にとっ

ては大変貴重な木でもあるのです。お坊さんの茶色い衣は、このジャックフルーツの木を細かく刻んで、煮だした汁で染色されるのです。これも律の規定に書かれており、今回特別にこの染色作業を体験させてもらいました。私の衣の肩の部分が鉢の途中で綻びてしまい、この茶色の一切れをもらって修復しました。

食事のあとは各自自由となりますが、勉強会や、カレン族が山の上に建てた仏塔の見学などをしました。夕食が済んで、六時半から野外で夕課、そして瞑想。この時間帯が一番素晴らしく、日が落ちてゆく中、美しく神秘的なパーリ語で読まれるお経が外に響き渡ります。それはまるで仏法がお経という音色と共に、



夕課

世界に溶け込んでいくような感覚です。その感覚を維持しながら瞑想に入ります。私もまがりなりにもこれまで坐禅をしてきましたが、更に瞑想のスキルが一気に上がったことを実感しました。このテラワダの風に包まれたからです。ここで少し坐禅のコツをお伝えしましょう。座り方や呼吸などは、本やインターネットを調べればすぐにわかりますので割愛します。大切なのは感じることに。人間の感覚器官、特に音やにおい、皮膚に触る風を感じる感覚です。それを瞬間瞬間(刹那)に分けて感じていきます。あ、いま風があたったとか、いま風鈴の音が入ってきたとか。ここで大切なのは、どの感覚もすべて素直に受け入れることです。なかには痒みや不快な音、においもあるでしょう。それも嫌悪せず、すべて自分の純粹経験として受け入れるのです。そうすれば自ずと外界と自分の区別がなくなっていく、自他共に一つとなれるのです。色即是空、空即是色、一即一切、一切即一の境涯です。瞑想はお寺などの特別な場所だけで限られてするものではなく、いつでもどこでも簡単にできるのです。但し、車の運転中だけはあまりオススメしません。

さて余談が続きましたが、あとは寝るなり勉強するなり、瞑想し続けるなりして翌朝まで自由です。これがタモ寺での生活でしたが、肝心の托鉢で、村人の反応はどうだったのでしょうか。やはり最初の五日間は無反応でした。もはや諦めかけていたのですが、最後の六日目の朝、突然その時がやってきたのです。落合尊師と歩いていると、いつも前を通っていた雑貨屋のおじさんが何気に入れてくれたのです。それから続けざまに、周りの大人から子供までもが、どんどん入れてくれました。私の願いが叶った瞬間

でした。どの世界でも懸命に信念を貫いて行動すれば、どんな格好をしても人の心は動くものなのだ実感しました。

以上、テラワダの国で、日本仏教が少しでも認められ、価値のある旅として終えることができました。ただ一つ感じたことは、なぜそれだけタイという国は仏教に篤いのかということ。在家の方が寺に無償で奉仕されることや、寄進の規模、そしてお坊さんに対する接し方などです。ずっと考えていると、旅の間、落合師のお話で、タイでは仏教誕生以前からある輪廻思想を本当に信じているというお言葉を思い出しました。輪廻の世界は、原始仏典では基本的に天、人、畜生、餓鬼、地獄の五道とされます。人は業によって、亡くなった後にいずれの世界に生まれ変わります。この思想を信じているということは、現世の間に何としても徳を積んで、良いところへ生まれ変わりたい



落合尊師と最後の托鉢

と思うのです。それはスーパーやコンビニで貯まるポイントなんて、まるで価値が違います。そして徳ポイントが貯められる、簡単で唯一の場所といえばお寺ということになります。お寺にいるお坊さんは日常の世界から離れて出家生活を送っています。修行して阿羅漢という解脱者になると、輪廻の世界から外れ、苦しみが無くなります。そのような姿に布施をするということは、自分の功德として還ってくるようになります。日本では托鉢中、浄財をいただくときにはしっかりと低頭しますが、タイのお坊さんは布施を受けてもまったく動ぜず、凛としているのです。なぜなら村人に対して食べ物がほしいと気づかないながら行動するならば、それが執着となって気を取られ、修行の妨げとなるからです。村人からは媚びているように見られるそうです。村人は布施をするときは履物を脱ぎ、お坊さんの前で恭しく五体投地(礼拝)をしま



施しを受ける姿

す。そしてお坊さんは、前回の始まりに紹介した随喜発勤偈というお経の一節を読むのです。古代から伝わっている伝統と思いがあからこそ、こういった姿が成り立っているのです。施しする方も受ける方も、本当にとても美しい姿で輝いていました。ここではどんなにお金を持っても貧乏でも、幸福でも不幸でも、必ず来世を想って人々は行動しています。だから命の価値が非常に低い。みんな平等です。来世に想いを繋いでいるのです。人々はおおらかで、微笑みの国といわれる所以はこうした背景によるものではないでしょうか。

最後に。だからテラワダの教えこそが正しくて、日本仏教は律がないからダメだ、とは私は言いません。それぞれ素晴らしい教えだからです。これは仏教に限らず宗教を超えても言えることです。どの教えを選ぶかは皆さんの自由です。人が強制する権利はありません。しかし人間は自分とは違った考えや生き方を除外する傾向にあります。結果、対立が生まれ、争いが起こるのです。この考えこそが無明です。今回の私の経験のように、これからの時代は違うものは違うものとしてお互い認め合い、歩み寄ることが大切なのではないでしょうか。お互いを称え、慈しみあう世界を伝えるために仏教があるのです。私は仏教によって助けられ、このような出会いと経験ができました。仏教は本当にかっこいい。このようなご縁をいただいた佐々木先生と落合尊師、そして家族や私を支えてくださっている方々に感謝し、皆さまのご健康とご多幸をお祈りしてこの話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

相国寺の庭園

第三回

大本山相国寺で
最も「新しい」庭園

植昭 長岡造園 長岡秀晃

40

昨年秋、御本山の新しい寺務棟が完成しました。寺務棟は、庫裏から書院に向かう廊下を中心として四つの庭に囲まれています。今回の増築工事では、いろいろな形でその四つに手を加えさせていただきました。中でも北西側（寺務棟北・書院南側）の庭に関しては、既存庭園撤去後に新規に作庭させていただきました。がらりと雰囲気が変わりました。

今号では、歴史ある御本山の中で最も「新しい」庭について解説させていただきます。

この新庭園は東西に廊下、南北には新寺務棟と書院があり、四方を建造物に囲まれた形状に



庭園全景

41



相国寺型灯籠



丸二の紋



大書院からの景色

なっています。あまり大きなスペースではないので、限りあるスペースをいっばいに使った庭園を計画していましたが、ひとつ困難な点がありました。それは四方から屋根のひさしが出ているため、植栽が可能な面積が実際の庭の面積よりもかなり小さくなってしまうことです。（屋根等があり、雨や夜露がかからない場所は土壌が乾燥してしまい、植栽樹木が育ちにくい）これに関しては、逆転の発想で苔や樹木をひさしのない中央寄りに配置し、中央部に目が行きやすいようにすることで解決を図りました。ひさしがあり、植栽ができないスペースには白川砂を使用し、捨て石が一つ据えてある以外に余計な装飾はせずシンプルに仕上げてあります。また、地盤の高さを白川砂の部分は平坦にし、苔の築山部分にはしっかりと凹凸をつけて、砂利の場所と苔の場所の高低差を出すことでさらに中央部を強調させてあります。

築山中央の一番目立つ場所には、白川砂を使用した相国寺型灯籠（大徳寺高桐院型灯籠をモチーフとし、火袋に二か所丸二の紋が入った御本山オリジナルの灯籠）を配置しました。この灯籠は、大書院の東側の床の間に正面が向くように据え付けてあります。余談ではありますが、書院北側にある小川治兵衛の名入りの灯籠は大書院西側の床の間に正面を向けて据え付けてあります。（上座にお座りになられる方に正面が向くようになっていきます）灯籠だけではなく、景石には真黒石、貴船石、畚下石ふこおろしという京都産の石を使用しました。どれも賀茂七石と呼ばれる京都の名石です。中でも

灯籠に向かって左側に据え付けてある貴船石は色、形どれを取っても最高の石です。この記事を読まれた皆さんが拝観される際は、是非注目してみてください。

植栽のメインには台杉(北山杉)を使用しました。杉の木を使うことで京都の山を表現してあります。京都の町中にいるとは思えないほど静かな山内で、「市中の山居」を体感していただければと思います。もうひとつ、今後主役級になっていくのがモミジです。植栽時点では敢えて小さめの物を選びました。この寺務棟、そして新庭園とともに時間を歩んで成長してほしいという願いをこめて、敢えて植栽時点では小さめの物を選びました。すらっと伸びた台杉の下で、春は新緑、夏はギボウシの花、秋は紅葉、そして少し寂しくなりがちな冬は椿の真っ白な花、四季折々の変化を楽しむことができます。

最後に、寺務棟の足元の腰張りについてです。新庭園を含む、四つすべての庭の建物下及び廊下の下はとくさ張り風の竹張りです。御本山の竹やぶの真竹を加工し、一枚ずつ隙間が出来ないように合わせを行い、替折釘という和釘(二本一本手打ちで作られた釘)を使って止めてあります。ネジと違い、一直線に打たれた釘は美しく、それだけで景色になってくれます。

様々な意匠が凝らされた寺務棟ですが、その外にある庭園にも庭師の小さなこだわりがたくさん詰まっています。そんな小さな「こだわり」を探しながら庭園を見ていただけたら幸いです。

「思い出と共に」

演劇塾 長田学舎 齊藤維明

北海道の北部、宗谷地方の小さな山村から京都へ出て来て、早いもので半世紀を優に過ぎる年月が経ちました。思い振り返えれば、長い月日であったようでもあり、又、束の間の月日であったようにも思えます。

京都で迎えるお正月も、もう五十六回目にもなるのでしょうか。

子供の頃の北海道でのお正月の事を思い出してみると、昔の記憶の彼方のことなので、断片的で取り止めのない事ばかりになってしまいます。しかし、年末からお正月にかけては、何となく浮々とした昂揚感があったように思います。それと云うのも、注連縄飾りや餅搗きで、檀家の人がお手伝いに来て呉れて賑やかだったからです。特に餅搗きは、搗きたての餡餅、豆餅をお腹いっぱい食べられたのですから。

そんな幼い頃のこと、今も部分的ですが、鮮明に甦る思い出もあります。そんな思い出を二つ程書いてみます。

その一つは、俳句会で、思いもよらず誉められて嬉しかったことです。

私の生家は、曹洞宗のお寺でした。

父は、叔母達の言を借りれば、若かりし頃は文学にかぶれて、ちょっとした不良だったと云うことでした。そんな名残りもあったのでしょうか、私の知る父の趣味の一つに俳句がありました。「雪洞」と云う雅号で、日々に詠ん





だ俳句を備忘録のような物に記していた記憶があります。俳句好きの街の人や、坊さん仲間がよく句会を開いたようです。

小学四年か五年生の頃だったと思うのですが定かではありません。

その年のお正月、未だ松の内の早い時期だったと思うのですが。お寺で句会が開かれた事が有りました。その句会に、小学生の私が何故出たのか、その経緯に記憶はなく、全く解らないのですが、初めて俳句なるものを作ったのは確かな事だと思います。それが次のような俳句です。

「いんいんと 心をはこぶ 除夜の鐘」

会のみんなが誉めて呉れたのですが、中でも、父の次に恐かった檀家総代のおじさんが、ずいぶん喜んで大声で誉めて呉れたことでした。その頃の私は、今思っても相当のヤンチャ坊主で、廻りの人に迷惑ばかり掛けてましたから、ほめられるようなことはなかったので、嬉しくて舞い上った気持ちだったと思います。ですから、この句を未だ忘れずに思い出すことが出来るのだと思います。但し、今にして思えば、この句の巧拙はさておいて、俳句の知識も無い子供が、いんいん(殷々)などの難しい言葉を思いつくのは、はなはだ疑問の残るところです。多分、誰れかが手を貸して呉れたのだと思うのです。さて、もう一つの思い出は、初めて除夜の鐘を撞いた時のことです。

年越の除夜の鐘を撞くのは、男兄弟の仕事でした。鐘つき堂は屋根が有っても、他は吹きさらしです。雪国のことですから、吹雪の年も有れば、又、冷え込みの厳しい、氷点下十度、二十度と云うようなことは当り前のようでした。

小学校四、五年生の頃は、兄達の撞く鐘の数を数えるのが仕事でした。六年生になって初めて鐘を撞いたと記憶しています。兄達に混って交替で撞いたのですが、何度も撞き損って変な音を出しました。その度に、「今年の除夜の鐘をお前が撞いていると街の人達にばれてしまうぞ」と冷やかされました。そんなことを言われると余計に緊張して上手に撞けなかったものです。事実、後日のことですが、豆腐屋のおばさんがたにた笑い乍ら「こうちゃん、(みんなに愛称で呼ばれてました)除夜の鐘を撞いてたね」と声を掛けられ、やっぱり撞き損いがばれていたんだと思い、ちよつとはずかしくて暫くは悄気ていたと思います。

今、こうして子供の頃を思い浮かべると、ただ懐かしいと云うだけでなく、こんな小さな出来事の一つ一つが、私の人としての成長の糧になっていたように思えます。

両親、兄弟姉妹はじめ、友達、周りの全ての人達の温かい心が、人として



の道を誤ることなく、他人様にそれ程迷惑を掛けることもなく、平凡ではあります。幸せな人生を送って来れたのだと気付かされます。

世の中は、正にIT全盛の時代——ネットの情報が満ち溢れ、現実と疑似の世界が混濁して、本当のものが見え憎くくなっているように思えます。又、極近い将来、AIと云う人工頭脳なるものが、普通に人の暮しを劇的に変えると言われています。

それだけに、人と人の係り付き合いに、生身の人の温かな心がより大切に なって来るのではないのでしょうか。

おさだ塾自主公演のお知らせ

『春の小さな劇場』

公演日／平成三十年三月三十日(金)・三月三十一日(土)・四月一日(日)
問い合わせ先／おさだ塾 電話・FAX(〇七五)二一—一〇三三八

於・般若林(相国寺北門前町)

※おさだ塾の自主公演は、秋の「町かどの藝能」と「春の小さな劇場」です。秋の公演の舞台は般若林のお庭ですが、春の公演の舞台は、おさだ塾の稽古場です。小さな劇場ですが、俳優の息遣いが感じられる、臨場感あふれる劇場です。内容は、誰もが無条件で楽しめ、そして清潔な感動を通して、その余韻の中から何かを考えさせられる演劇を理想とするおさだ塾のオリジナルの現代劇です。

本山だより (平成二十九年八月〜十一月)

○第六十四回 暁天講座

八月二日、三日の二日間、第六十四回暁天講座を開催した。両日とも五時半受付開始、六時より坐禅、六時四十五分より講演。その後、大書院では七時半から粥座があり、参加者一同作法に従ってお粥をいただいた。

今年の講師は、初日に国際日本文化研究センター准教授の磯田道史氏が「災間を生きる——京都の震災史」、二日目に有馬管長が「朝鮮半島の仏教」という演題でそれぞれお話をいただいた。磯田氏はNHK『英雄たちの選択』の番組司会者などでも知られており、講演では資料や文献をもとに現在の京都が約二〇〇年間震災にあっていないことの特異性と、常に最悪の事態に備える心構えの重要性を説かれた。また有馬管長は朝鮮半島のみならず、中国の仏教および仏教文化について、



有馬管長法話



磯田道史氏講演



承天閣美術館2階講堂での坐禅



恒例の粥座

ご自身の百回にせまる訪中体験をふまえ平易に広角的に説かれた。両日とも多数の参加者があり、大変盛況であった。尚本年は本山庫裏改修工事につき、坐禅と講演は承天閣美術館二階講堂で行われた。

○臨黄合議所理事会

九月四日、臨黄合議所理事会が南禅寺において開催され、佐分宗務総長が出席した。

○相国寺々務棟増築竣工落慶法要

九月七日、相国寺々務棟増築竣工の落慶法要が厳修された。法要では有馬管長を導師に小林老大師、澤大道国泰寺派管長猯下、佐分宗務総長をはじめ本派宗会議員、一山尊僧、総代、工事を請け負った竹中工務店関係者、本山相楽社等約七十名が列席した。法要後は場所を大書院に移し祝宴を行った。冒頭、管長よりこの度の慶事への祝意と関係者への労い、さらに事務局一同一層の精進努力を期す

旨の挨拶があり、その後乾杯となった。終宴後は佐分宗務総長より来賓への謝意と、増築工事の意義、中でも新たに大きな部屋を割り当てた相国寺史編纂室の事業充実、それに連なる僧侶の教化育成が語られた。

管長祝語は左の如し。

宝刹毫端忽円成 宝刹毫端、忽ち円成
人天齊立展双眉 人天齊く立って、双眉を展ぶ
硯海雲烟眞供養 硯海雲烟、眞供養
松風羅月報恩時 松風羅月恩に報いる時

大龍叟

(巻頭カラー2ページ・20ページなどを参照)

○独園禪師顕彰会

九月十日、岡山市県立図書館において「独園禪師顕彰会」の設立総会と有馬管長の記念講演が開催され、矢野教学部長と佐分財務部長が随行した。萩野独園禪師は、岡山県玉野市の豪農の家に生まれ十三歳で出家、相国寺



獨園禪師について講演する有馬管長

僧堂において鬼大拙こと大拙承演老師、更には越溪守謙老師の教導を受けた。後年明治政府が発令した神仏分離令、それによって全国に広まった廃仏毀釈に敢然と立ち向かい、当時の臨濟、曹洞、黄檗三宗の総管長として、反対運動の先頭に立ち、ついには明治政府に信教の自由を認めさせ、神仏分離令を廃案に追い込んだ。

相国寺では第百二十六世の住持、相国寺派初代管長である。有馬管長は講演の中で、獨園禪師を多角的にとらえ、平易な言葉でその人となりと功績を話され、約百名の聴衆は熱

心に聞き入った。講演後は懇親会もあり獨園禪師の法縁に連なる者同士、一層の親交を深めた。

○同宗連第一連絡会議

九月十一日建仁寺に於いて、二十九年度二回目の同宗連第一連絡会議が開催され、矢野教学部長と澤林光院副住職が出席した。

本年度は、一昨年に続き京都市観光協会主催の第五十二回「京の冬の旅」に協賛し、一月十日から三月十八日まで法堂、方丈の二か所を公開する。引き続き春期特別拝観は、三月二十四日から六月四日まで、公開場所は法堂、

○室町小学校坐禅会

九月十二日室町小学校六年生の坐禅体験があり、学童四十名、引率者二名が参加した。この坐禅会は平成十五年から毎年行われており、当日は矢野教学部長と荒木参務が指導にあたった。最初に承天閣美術館二階講堂で矢野教学部長より、相国寺が創建された頃について映像や写真などを使って説明を受け、大書院に移動してから坐禅を体験した。その後法堂と方丈を拝観し無事下山となった。

方丈、宣明(浴室)の予定である。

○第三十七回寺院婦人研修会

十月十一、十二日の両日、第三十七回相国寺派寺院婦人研修会が行われた。初日は午後十二時半参集、一時より方丈で本尊・開山各諷経後、佐分宗務総長より開会挨拶、有馬管長より訓示をたまわった。記念撮影後、大書院にて坐禅を行った。

○二十九年度秋期特別拝観

九月二十五日より平成二十九年度の秋期特別拝観を行い、法堂、方丈、開山堂が十二月十五日まで一般に公開された。

その後、中江好喜氏(京都観光文化を考える会「都草」理事・SKYガイド)を講師に招き、「仏教にかかわる四方山話」という題で、

我が国の仏教各派についての基礎知識のみならず、寺院建築等の講義をたまわった。

翌日は朝の修了式後、南禅寺塔頭の金地院



中江好喜氏による講義



無鄰菴にて説明を受ける

(京都市左京区)特別拝観、引き続き国指定名勝「無鄰菴」の拝観をした。
 今回は以下の教区より次の十八名が参加した。

◇参加者名簿(教区・台番順)

第一教区 澤 万里子・澤 洋子(林光院)

山木佐恵子(普廣院)

久山順子(慈照院)

荒木寛子(光源院)

草場容子(慈雲院)

佐分厚子(豊光寺)

平塚久恵(養源院)

第二教区 和田真弓(是心寺)

第四教区 田中智津子・田中温子(円福寺)

石崎典子(海岸寺)

五十嵐多賀子(善應寺)

鈴木笑子(潮音院)

第六教区 矢野八恵子・矢野志保(南洲寺)

芝原由紀子(感應寺)

松下知子(永徳寺)



○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が、十月二十日(宿忌)、二十一日(半斎)の両日にわたり厳修され、第四教区若狭より一三七名(寺院十名を含む)、第五教区出雲より四十五名(同寺院一名)の相国会会員の団体参拝があった。

二十一日は、九時より法堂において小林老大師導師のもと猷粥諷経にはじまり、諸堂焼香、奠供十八拜が行われ、引き続き檀信徒、総代、本派寺院、天龍寺一山、臨済宗黄檗宗各本山、他宗派寺院の順に入堂し、管長導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴呪行導が厳修された。続いて、開山塔(開山堂開山像真前)にて諷経がなされ終了した。

また法堂では相国寺総代、相国会会長や同会員ら列席者と教学部で共に「般若心経」諷誦を行い、代表者には焼香をしていただいた。

管長香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

石高溪澗水聲穹 石高く、溪澗水聲穹なり
葉落前林岬骨窮 葉は前林に落ちて、岬骨窮まる
一句如何報恩義 一句如何が、恩義に報いん
秋山月影爲誰紅 秋山月影、誰が爲に紅なり
頼底九拜
定中昭鑑

○臨黄合議所移動理事会

十月二十四日、臨黄合議所の移動理事会が大本山国泰寺(富山県高岡市)において開催され、佐分事務総長、矢野教学部長、山木財務部長、佐分財務部長が出席した。

○天龍寺開山忌

十月三十日、京都市右京区の本本山天龍寺において開山夢窓国師毎歳忌半斎法要が厳修され、相国寺より佐分事務総長以下計十名が出頭した。

坐禅会のご案内

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催
(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、経典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院

時間：午前九時より十一時迄

内容：坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。(電話〇七五―二三一―〇三〇―一)

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

東京維摩会^{ゆいまかい}

平成三十年の開催日は左記の通りです。

会場：相国寺東京別院 方丈・客殿

有馬管長坐禅会

一月十三日(土)、二月十七日(土)、三月十日(土)、四月十四日(土)、五月十二日(土)、六月九日(土)、七月十四日(土)、九月十五日(土)、十月六日(土)、十一月十日(土)、十二月十五日(土) (八月は休会です)
時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

注意点：五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

小林老師坐禅会

一月二十七日(土)、二月十八日(日)、三月二十五日(日)、四月十五日(日)、五月二十六日(土)、

六月二十三日(土)、七月二十一日(土)、八月四日(土)、九月八日(土)、十月十三日(土)、

十一月十七日(土)、十二月二十三日(日)

時間：午後一時より二時半迄

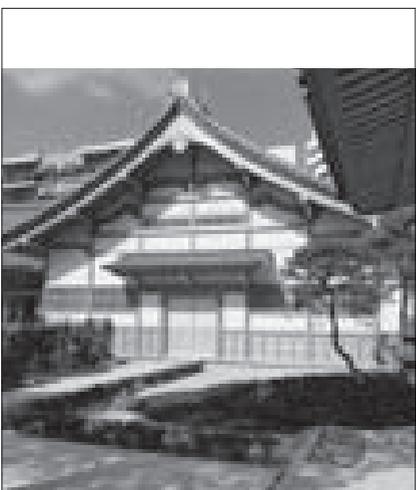
内容：『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

注意点：五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧ください。相国寺東京別院 (電話〇三三四〇〇一五八五八)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858

会場：方丈・客殿

〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講大峰山入峰、
谷汲山華嚴寺参拝

毎年六月に大峰山に入峰修行する相国寺信心教社第一号連山組にて、同行入峰修行される塔頭光源院住職荒木元悦和尚は、住職就任以来昨年六月入峰で五十回目の入峰修行を無事終えられた。

平成二十九年六月九日午前九時より、光源院行者堂において前行を行い、道中安全、家内安全の祈願を役員及び今回で七回目の入峰をされる、院号授与者の他多数の参拝者と共に行う。翌日十日早朝六時堀川今出川を大型バス一台で新緑の大和路を一路奈良県吉野郡天川村の洞川どうがわに向かう。十時宿泊所になる洞川西村清五郎指定旅館到着、早めの昼食手弁

当を取り直ちに入峰に向かう。晴天にめぐまれて、入峰日と新客を先頭に山上に向かう。最初の行場「西の視」も事故なく無事に終え、新客は裏行場へ、他の者は本堂に向かう。新客の行を終え全員そろった所で勤行を行う。参詣後各自全員無事下山し、夕食後旅館にて宿泊する。

翌十一日は午前五時半起床、六時に龍泉寺水行場において新客と共に般若心経を唱えながら水行を行う。終って西村旅館にて朝食をとり、全員龍泉寺へ参拝後洞川を出発する。西国三十三番霊場谷汲山華嚴寺へ一路高速道を経由し途中昼食後美濃路を経て三十三番札所に参詣する。写真撮影の後一路高速路にて京都に向かう。ホテル東山閣にて小宴、午後八時ホテル出発、堀川今出川八時半着、全員万歳三唱して目出度く解散した。

第二教区

○第二教区相国会支部総会

六月二十四日、午前十一時より是心寺(京都市左京区岩倉)に於て、当教区の支部総会が二十七名の参加者を得て開催された。

はじめに是心寺和田賢明住職導師のもと全員で般若心経を誦した。次に総会に入り、波多野外茂治相国会支部長、牛江宗道顧問(竹林寺住職)が挨拶をしたあと、昨年度の事業報告・会計決算報告がなされた。今年度は支部役員改選の年に当り、新しい役員が選出された。

引き続き懇親会が行われ、新旧役員ともども歓談し、精進料理を頂いて無事総会が終了した。



谷汲山華嚴寺 平成29年6月10日入峰 連山組 50名



第三教区

○南苑寺^{なんえんじ}前任職 小野塚越山師^{このづかこし}ご遷化

十一月八日、南苑寺(鳥取県三朝町^{みよささ})の前任職小野塚越山師が九十一歳でご遷化された。師は大正十五年のお生まれで、戦前に林光院元住職の橋本修堂師のもとで得度され研鑽を積まれた。昭和三十一年に南苑寺の住職に就任後は寺門興隆にあたられ、平成十八年には住職就任五十年褒賞を受けられている。また教員としてもご活躍され、教鞭をとられた。

同寺は山の急斜面にある為、近年も落石被害が出るなどしていたが、堂宇の修復、落石防止柵の設置など平成二十七年に住職をご退任されるまで、長きにわたり境内の護持にも尽力された。

同寺兼務住職である澤宗泰師の導師により、十一月九日に通夜、翌十日に葬儀が厳修された。



第二教区 総会後の懇親会

第四教区

○若狭相国会 役員会

六月二十日、若狭相国会役員会を真乗寺に於いて開催した。本年度行事等について協議した。

○宗務支所 支所会

六月二十一日、支所会を真乗寺に於いて開催した。お盆行事調整及び本山開山忌団参について協議した。

○若狭相国会 役員会

七月十九日、高浜公民館に於いて、「釈宗演を顕彰する会」と合同調整会議を行った。

(70ページ参照)

○宗務支所 支所会

九月二十七日、支所会を真乗寺に於いて開催した。本山開山忌団参の参加者集計等協議

した。

○寺庭婦人会 奉仕作業

九月二十九日、おおい町の特別養護老人ホーム楊梅苑にて奉仕作業を行った。

○本派寺庭婦人研修会参加

十月十一、十二日、本派主催の「第三十六回寺庭婦人研修会」に当教区より寺庭五名が参加した

○宗務支所 開山毎齋忌団参

十月二十一日、相国会会員百二十四名、住職九名、合計百三十五名参加。本山法要参拝後、比叡山延暦寺を参拝した。

○若狭相国会 役員会

十月二十四日、高浜公民館に於いて、「釈宗演を顕彰する会」と合同調整会議を行った。

第五教区

○出雲相国寺会親子坐禅会

七月二十八日、「夏休み親子坐禅会」を東光寺で開催した、親子五十九名、世話十九名、総勢七十八名の参加があった。

ラジオ体操を行ったのち富田寺和尚の指導のもと坐禅。坐禅終了のち、坐禅和讃を唱和し、参加証が子供に渡された。その後、斐川町在住の石川さんご夫婦により手品が行われ、大きな声で笑い楽しいひと時を過ごした。

○本山開山忌団体参拝

十月二十一日、例年通り本山開山忌に合わせ、団体参拝を行った。参加者は例年より多い四十四名。前日の二十日は伏見稲荷大社、京都鉄道博物館を見学、雄琴温泉で宿泊した。

二十一日は、法堂で開山忌法要に出席したのち、昨年は事務棟の改修工事の為にいたくことが出来なかった精進料理を、参加者一同方丈



出雲相国会親子坐禅会

にて喜んで頂戴することが出来た。

続いて境内の承天閣美術館を拝見したのち、キリンビアパークを見学して帰路に着いた。

第六教区

○光明寺閑栖秋彼岸法話

松本憲融師（布教師・鹿児島市 光明寺閑栖）が特請を受け、九月二十三日は桂雲寺（南禅寺派・佐賀県有田町）において、また九月二十四日は福聚寺（妙心寺派・福岡県久留米市）において法話を行った。



本山を団体参拝した相国会会員



釈宗演しやく そう えん 禅師の 百年遠諱を 迎えて

第一回

釈宗演を顕彰する会
第四教区若狭相国会

会長 伊藤 彰

今年平成三十年十一月一日に、第四教区若狭高浜が誇る近代日本の高僧釈宗演禅師の百回忌を迎えます。このため高浜町内では顕彰事業や百年遠諱法要が計画されており、これらの活動等について三回にわたり紹介いたします。

釈宗演しやく そう えん 禅師とは

若くして円覚寺派二代管長に就任され、西洋の文化・思想等により日本の西洋化が進む明治・大正期において、日本仏教の近代化に取り組み、海外へも精力的に出向き、禅「ZEN」を日本人として初めて伝道された先駆者です。

〈略歴〉

- ・ 安政六年（一八五九）に若狭高浜の一瀬五右衛門家（相国寺派長養寺の檀家）の二男として誕生。
- ・ 満十歳（以後満年齢）の時に近所で縁戚にあたる越溪守謙（妙心寺派四代管長）に付き出家し妙心寺天授院に入る。
- ・ その後、京都建仁寺、岡山曹源寺、鎌倉円覚寺等で修行し明治十五年に二十三歳で洪川宗温（円覚寺派初代管長）から印可証明を受ける。
- ・ 明治十八年（一八八五）、僧では珍しく福沢諭吉が創設した慶応義塾の別科へ入学し洋学・英語を学ぶ。塾内での立ち振る舞いから福沢諭吉は、「この僧、



釈宗演禪師生誕地の碑

他日必ず一山の貫主であろう」と見抜いていたとのこと。

・明治二十年（一八八七）、山岡鉄舟、福沢諭吉等多くの人の資助を受け、単身で遠国セイロン（現在のスリランカ）に渡り、約三年間南伝仏教を学ぶ。

・明治二十五年（一八九二）、洪川宗温の示寂により三十二歳で円覚寺派管長に選ばれる。

・明治二十六年（一八九三）、米国シカゴでの第一回万国宗教大会に日本代表で出席し、「仏教の要旨ならびに因果法」の演題で演説。（この演説文の英訳者は宗演禪師に参禅していた鈴木大拙）

・明治三十六年（一九〇三）、建長寺派から請われ建長寺派管長を兼務。

・明治三十八年（一九〇五）、両管長を辞任し鎌倉東慶寺に入る。同年六月から約一年三箇月間、米国・欧州各地を回り仏教・禅を布教。禅を「ZEN」として世界に広めた。帰国後は示寂まで国内のほとんど、そして中国、台湾等へも積極的に向き布教。まさに南船北馬であった。

・大正三年（一九一四）、臨済宗大学（現花園大学）の学長に就任。

・大正五年（一九一六）、円覚寺派管長に再任される。宗演禪師に参禅していた文豪夏目漱石の葬儀で導師を務める。

・大正八年（一九一八）十一月一日、東慶寺にて五十九歳で示寂。

顕彰事業（釈宗演を顕彰する会）

百年遠諱を切掛けとして、高浜町民に宗演禅師の偉業を周知し、次の世代に伝え残していこうとの趣旨で、一昨年の十月に町民有志により「釈宗演を顕彰する会」が発足しました。

発足当時はこの会単独の活動でしたが、福井の先人に学び歴史・文化を継承するとの理念の基で今年実施される県事業「幕末明治福井百五十年博」において、高浜町の先人として宗演禅師が選ばれたため、現在では高浜町の助成を受け活動しております。

昨年の具体的な活動としては、町民に宗演禅師の偉業について知ってもらうため、会報「釈宗演



大型看板による周知

だより」の発行、会員研修会や講演会の開催（セイロンでの苦修を綴った「西遊日記」を現代語訳された正木晃先生の講演等）、ポケット版パンフレットの作成・イベント等での配布、大型看板の設置等を実施してきました。お陰様で徐々に宗演禅師顕彰の気運が高まって来ております。昨年末にはホームページも開設し、全国や海外にも宗演禅師の偉業等について発信しております。

今年も周知活動は継続しますが、十月二十八日に円覚寺派横田南嶺管長猥下に お越しいただき、顕彰式、顕彰碑除幕式及び記念講演会を実施いたします。なお、これら顕彰事業実施のためには資金が必要となるため募金活動も実施中です。

百年遠諱法要（若狭相国会）

十月二十九日に、宗演禅師が幼児期に読み書きを勉強された相国寺派長福寺において、横田南嶺管長猥下の導師の元で第四教区全寺院一丸となり執り行います。

以上、釈宗演禅師の略歴、昨年の活動状況そして今年の予定でした。今後の活動状況につきましては次号にて紹介いたします。

最後になりましたが、顕彰事業・百年遠諱法要に横田南嶺管長猥下のご臨席をいただけるのは、本山ご内局から円覚寺様へのお口添えのお蔭です。ここに厚くお礼申し上げます。

【講義録】

「『相国寺史料』を読む―江戸時代の相国寺と山内法系」発刊

平成二十九年二月から三月にかけて四回にわたり行われた、相国寺史編纂室研究員、藤田和敏氏による研修会の講義録、「相国寺史料」を読む―江戸時代の相国寺と山内法系」を昨年九月に刊行いたしました。

また、藤田氏の相国寺研究の講義録は現在までに「相国寺本山所蔵古文書の全容と新出史料の紹介」、「宗門と宗教法人を考える―明治以降の臨濟宗と相国寺派」、「相国寺史料」を読む―江戸時代の相国寺と山内法系」の三冊を刊行いたしました。これらを時系列にまとめ整理して、宝蔵館より一般書籍として刊行される予定です。本書は相国寺の史料を通して、江戸時代以降、現在につながる宗門の組織としての歴史分析の試みであり、歴史を通して現在の組織、システムとしての宗門のあり方を考える資料となるものです。さらに研究が深まることを期待したいと思います。



【相国寺研究】

井上治氏(京都造形芸術大学准教授)の連続講座「慈照寺と無双真古流」を左記の通り開催中です。

日程	二〇一七年	九月	十四日	第一回 「東山文化と諸芸道」(終了)
		十月	十二日	第二回 「花道文化の発展」(終了)
		十一月	九日	第三回 「江戸時代の花道」(終了)
		十二月	十四日	第四回 「無双真古流の位置」(終了)
	二〇一八年	一月	十八日(木)	第五回 「無双真古流の意義」

講義は 午後二時三十分～三時 その後、質疑応答(三〇分)
寺務棟二階 講堂に於いて開催の予定

慈照寺に伝わる花道・無双真古流は江戸時代に始まる「細い流れ」として続いてきました。しかし、ここ十年あまり無双真古流として免状を出さず、弟子の養成も行われず、銀閣寺に伝わる花道としては消滅する状況にありました。

そこで、慈照寺の機構改革により、従来の無双真古流指導者による献花や免状の発行を復活しました。今回の相国寺研究は無双真古流と慈照寺の関係を再検討し、その歴史的背景を知り、これからの慈照寺と無双真古流のあり方を考える機会となることを意図したものです。講義録の発行も予定しております。

【現代社会問題研修会】

大石真氏(京大名誉教授)より各宗教団体に送付された、「科研費補助金による学術調査への協力依頼」は、各宗教団体の宗憲、宗制その他の規則の提供を依頼されるものでした。その研究内容と目的は、国家の補助金を受けてなされる研究としては、疑問と懸念を持たざ

るを得ない内容でした。

特に「宗教法人の自治権の保障と、宗教法人の運営の適性の確保という要請との間の調整がどうあるべきかを明らかにすること」という表現は宗教団体の自治権の制限に連なる危険性があるという疑念を抱かせるものです。これは多くの宗教者が疑念を抱く内容ではないかと考え、大石氏を講師として研修会を開催し、下記の通り、学者、宗教団体に参加をいただき、真剣な討議が行われました。

講師 大石 眞氏(京都大学名誉教授)

日程 二〇一七年十一月二十五日(土) 午後一時三十分～二時三十分 講演

午後二時四十分～四時 質疑応答

場所 相国寺寺務棟 二階講堂

主な出席者 京都仏教会役員、妙心寺、平等院、松緑神道大和山、天理教網島分教会、天理教

豊繁分教会、新宗連大阪事務所、大阪キリスト教連合会、西日本福音ルーテル教会、PL教団和歌山教会、相国寺顧問弁護士、中外日報社、日本基督教団京滋支部 他

学者 洗 建 駒沢大学名誉教授 宗教学

田中 滋 龍谷大学教授 社会学

田中 治 同志社大学教授 税法学

桐ヶ谷 章 創価大学名誉教授・弁護士

櫻井 閑郎 (元)東京基督教大学・宗教経営研究所長

松岡 幹夫 (財)東洋哲学研究所研究員

藤田 尚則 創価大学法科大学院教授

宮下 良平 カトリック中央協議会 事務局長

参加者 三十人(順不同)

出席された各宗教団体や学者の方々から、多くの疑問点や懸念が表明されましたが、納得のいく説明は得られず、このままでは協力できないことを確認いたしました。

この問題は引き続き京都仏教会、各宗教団体とも連携して議論を深め、対応を検討していく予定です。

【相国寺研究これからの研修会】

今回新たに承天閣美術館副館長・学芸統括に就任された高橋範子氏に、相国寺所蔵文化財を中心に、関連する墨跡や書画の連続講座を開催することになりました。今後定期的に相国寺が所蔵する文化財と取り上げ、その時代背景、相国寺に所蔵されることになった歴史的な経緯も含め、その意義を解説していただきます。

第一期として、下記の日程で講座「相国寺文化圏の研究Ⅰ」を開催致します。講義録の発行も予定しております。

テーマ『相国寺文化圏の研究Ⅰ』

講師 高橋 範子氏 相国寺承天閣美術館副館長・学芸統括

日程 二〇一八年

第一回 二月 七日(水)

「相国寺文化圏の誕生―足利義満が生きた時代(前編)」

無学祖元賛「白楽天図」をめぐって

第二回 二月二十八日(水)

「相国寺文化圏の誕生―足利義満が生きた時代(後編)」

絶海中津賛「山水図」と相国寺

第三回 三月 十四日(水)

「禅の風雅―中世相国寺が育んだ文化(前編)」

惟肖得巖賛「山水図」が誕生した場

第四回 四月 四日(水)

「禅の風雅―中世相国寺が育んだ文化(後編)」

景南英文序「沙鷗図」が物語るもの

いずれも、講義は 午後二時三十分～三時 その後、質疑応答(三〇分)

寺務棟二階 講堂に於いて開催の予定

◇講師プロフィール

一九五七年、大阪府生まれ。一九八一年、帝塚山学院大学文学部美学美術史学科卒業。

財団法人正木美術館学芸部に就職。学芸員、主席学芸員、副館長を経て、二〇一二年―一四年に館長。二〇一七年九月より相国寺承天閣美術館副館長・学芸統括。研究分野は日本美術史。中世禅宗文化圏を専門とする。

著書 『水墨画にあそぶ―禅僧たちの風雅』(歴史文化ライブラリー一九七・吉川弘文館

二〇〇五)。共著に『禅と天神』(吉川弘文館、二〇〇〇)、『講座日本美術史』第四卷(東京大学出版会、二〇〇五)、『水墨画・墨蹟の魅力』(吉川弘文館、二〇〇八)など。

概要

鎌倉時代に中国よりもたらされた宋風の純粹禅は、わが国において独自の発展をなし、独自の禅宗文化を育みました。鎌倉の地で武家文化として形成されていったわが禅宗文化は、室町の世を迎え、政治の中心も禅宗の中心も京の都へと移行するなかで、それまでとは異なるあらたな方向性を呈し始めます。その象徴として位置づけられるのが、室町三代將軍・足利義満によって創建された相国寺におけるあらたな禅宗文化の誕生でした。相国寺文化圏とは、どのようなものであったのか？

従来の禅宗文化のなから何を継承し、何を新たな要素として取り込み、室町文化としての禅宗文化がそこに成立していったのか。相国寺に伝わる代表的な名品を丁寧に分析しながら、十五世紀の相国寺文化圏の様相を説明してゆきます。

発表は、次の四つの内容で構成されます。

第一回は、無学祖元賛「白楽天図」の分析をとおして、日中の禅僧たちが追い求めた文人

志向を読み解き、来日僧・無学祖元がわが禅宗文化の形成に与えた影響を明らかにします。いわば相国寺文化圏誕生前夜を、掘りおこします。

第二回は、相国寺の高僧・絶海中津ゆかりの「山水図」の史的位置づけをとおして、中国に渡ること約十年、明国の最新の文化をもたらした絶海中津が相国寺文化圏に果たした役割を明らかにします。

第三回は、相国寺ゆかりの室町時代を代表する詩僧・惟肖得巖が詩をよせる一幅の山水図をとりあげ、名画誕生の現場を再現します。書斎図と呼ばれる、特殊な山水の景観のなかに、室町の禅僧たちは何を託していたのか？ 詩僧たちの心の風景に迫ります。

第四回は、いわゆる詩画軸と呼ばれる、当時大流行の絵画形態の名作を紹介します。なぜこのような軸が誕生したのか？ 禅僧たちが興じた風雅の場を解き明かします。

毎回、みなさまと共に、室町の世の風雅に心遊ばせるひとときになればと願います。

高橋 範子

テーマと演題 『相国寺と室町殿の周辺(仮)』

講師 芳澤 元氏^{はしめ}

日程 二〇一八年三月十五日(木) 第一回「足利將軍の禅宗入門」

講義は 午後二時三十分～三時 その後、質疑応答(三〇分)
寺務棟二階 講堂に於いて開催の予定

◇講師プロフィール

大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。龍谷大学、京都精華大学非常勤講師等を経て、明星大学人文学部日本文化学科助教。中世禅宗史。
著書『日本中世社会と禅林文芸』(吉川弘文館、二〇一七年)。

概要

相国寺を創建した足利義満をはじめ、歴代の足利將軍たちは、少年期に、夢窓疎石の門徒から袈裟を授かる「受衣」儀礼をうけました。儀礼の実態や五山僧の役割を分析し、將軍家が受衣を行う意味を、宗教的・社会的な観点から捉えます。

各講座および研修会の『講義録』をご希望の方は、一冊につき手数料二千円を添え、下記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「活動」・「研修会」・「書籍案内」をご覧ください。

申込先

相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五一一三三二一〇三〇一

FAX〇七五一一二二三五九一

ホームページ(<http://www.shokoku-ji.jp>)

平成二十九年度(雪安居)
相国僧堂 在錫者名簿

京都(相国) 慈雲院徒 中山真周
京都(相国) 大通院徒 鈴木承圓

相国寺史編纂室だより ― 林光院の古文書 ―

相国寺史編纂室では、山内塔頭の歴史史料(古文書・軸物など)について調査を進めています。今回は、林光院に所蔵されている史料についてご報告します。

林光院には、現在一一九一点の史料が所蔵されています。そのうちの薩摩藩主島津家と林光院との関係を示す大正六年(一九一七)九月の「林光院改築之儀二付奉願口上覚」をご紹介します。この史料には、次のことが述べられています。

「島津義弘が関ヶ原合戦に敗れて薩摩に退却したとき、林光院第六世乾崖梵竺の祖父にあたる田辺屋道与という商人が、船の用意をするなどの忠節の働きをして、その後もたびたび薩摩を訪ねて義弘をお見舞い申し上げた。その縁故により、義弘の在世中である元和三年(一六一七)二月二十四日に、義弘は自身の木像を形見として直々に道与へ与えた。道与は摂津住吉に一庵を建立し、木像を安置した。元禄二年(一六八九)、乾崖が林光院の住職となるにあたり、道与の遺志によって木像は林光院に遷座することになった。それ以来、島津家から毎年御供養料を送る旨の御家老連署の書付が下された。なお、島津家久の参拝を始めとし、重豪・

齊宣・齊興も林光院に参拝した」

「林光院改築之儀二付奉願口上覚」は大正期に作成された史料であるために、記述内容が事実かどうかは同時代史料の記述によって確認する必要がありますが、元和六年(一六二〇)七月に薩摩国安国寺の学之(玄碩)によって記された「松齡院記」に、①義弘が自らの木像を道与に与えたこと、②道与は住吉神社の境内に木像を安置する寺院を新築して松齡院と名付けたことが述べられており、義弘から道与への木像授与は事実であると判断されます。

また、林光院には、鶯宿梅を詠んだ「島津家久和歌」(うくいすの春待宿の梅かえを をくるこゝろハ花にも有哉)と「島津重豪書」(琴酒俗塵跡)が現存しています(島津家久の藩主在任は慶長七年(一六〇二)〜寛永十五年(一六三八)、重豪の藩主在任は宝暦五年(一七五五)〜天明七年(一七八七))。

林光院と島津家との関係は、関ヶ原合戦後の島津義弘による田辺屋道与への木像贈与に始まり、江戸時代を通じて維持されたのです。

(相国寺史編纂室 藤田和敏)

忌名

没年

一周忌(小祥忌)	平成二十九年(二〇一七年)
三回忌(大祥忌)	平成二十八年(二〇一六年)
七回忌(超祥忌)	平成二十四年(二〇一二年)
十三回忌(称名忌)	平成十八年(二〇〇六年)
十七回忌(慈明忌)	平成十四年(二〇〇二年)
二十三回忌(思実忌・念三回忌)	平成八年(一九九六年)
二十五回忌(大士忌)	平成六年(一九九四年)
二十七回忌(念七回忌)	平成四年(一九九二年)
三十三回忌(冷照忌)	昭和六十一年(一九八六年)
五十回忌(五十遠年忌)	昭和四十四年(一九六九年)



平成三十年(二〇一八年) 年忌早見表

※年忌法要の詳細については、各菩提寺にお問い合わせください。

創業明暦年間



〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352

ゴヨウハシチミヤ
0120-540738
9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00)
<http://www.shichimiya.co.jp/>

夢のある空間づくりのパートナー



トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理
TOTAL DISPLAY
FUSHIMI KOHGEI
株式会社 伏見工芸

[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地
TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465

[宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地
TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254
e-mail: fushimi@d1.dion.ne.jp

税理士 奥谷 昌雄
税理士 内藤 誠

〒602-8026
京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地
TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461

office やまと

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル
電話 (075) 462-1385
FAX (075) 464-6120



寺社の電気、空調、防犯、防災設備

有限会社 土橋電気設備

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4
まちゃまちゃ 105号
TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332

こころをつたえる

和文具 和雑貨

株式会社 表現社

〒602-0861
京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る
TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354
<http://www.hyogensha.net/>

お茶会・式典・作品展 など
イベントのお手伝いは弊社へ



イベント運営・レンタルの京老舗
有限会社 テラヲ貸物店

〒602-0029 京都市上京区室町通上立売上る室町頭町279番地の5
TEL 075-414-1464 FAX 075-414-1474
E-mail office@terao-rental.com
URL <http://www.terao-rental.com>

此の客員、風景客員など
島を中心コースに訪れたくなります！

薬田明蘭
写真事務所

TEL 075-311-9389
FAX 075-311-9389

大本山相国寺御用達

社寺建築 (株)北村誠工務店

〒603-8225
京都市北区紫野南船岡東町45
電話京都 (075) 441-0563
FAX京都 (075) 441-0571



〒604-1835
京都市中京区大宮通錦上ル
電話〇七五八二二一三三七七二

大本山相国寺御用達

庭園 設計・施工

樋口造園 (株)

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル
電話 (075) 462-1385
FAX (075) 464-6120

大本山相国寺御用達

御法衣・仏具

(株)後藤利法衣店

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル
電話 (075) 221-4587
FAX (075) 223-0094
フリーダイヤル (0120) 014587

大本山相国寺御用達

精進料理

矢尾 治

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358
電話 (075) 841-2144
FAX (075) 841-2110
<http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp>

文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達

社寺建築 設計・施工
数寄屋建築



澤甚株式会社 澤野工務店

本社
〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入
TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775

山科事務所・工房
〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)

貴重な御法衣の御用は
大本山相国寺御用達

後藤新助法衣仏具店

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表) (075) 462-3915番
ファクシミリ (075) 462-3616番
URL <http://www.rinzai.jp>
E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp

大本山相国寺御用達

藤安田念珠店

〒604-8072
京都市中京区寺町六角角
TEL (075) 221-3735 FAX (075) 221-3730
<http://www.yasuda-nenju.com/>

なくてはならない印刷会社を目指して—



ヨシダ印刷株式会社 関西支店

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-8-3 新大阪サンアールビル北館10階 金沢本社社屋
TEL.06-6305-7888 / FAX.06-6305-7300

[金沢本社] 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141 (代)
[東京本社] 〒130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL.03-3626-1301 (代)

[営業所・工場] 富山・金沢本社・江東潮見
URL <http://www.yoshida-p.jp/>



大本山相国寺御用達
京仏具・仏壇



株式会社 **佛 壇 堂**

株式会社 **龍村美術織物**
URL: <http://www.tatsumura.co.jp/>

〒600-8033
京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四条寺町、南へ200M、西側)

関西店 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町65番地
京都朝日ビル2階
TEL (075) 211-5002 FAX (075) 211-5305
関東店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-1
八重洲中央ビル5階
TEL (03) 3562-1212 FAX (03) 3562-1230

TEL(075) 351-4092 FAX(075) 351-7231

大本山相国寺御用達

京都市指定

有限会社 **丸水設備工業**

- 上下水道衛生設備
- ボーリング井戸
- 消火栓設備
- 庭園池の濾過設備
- お墓の雨水処理
- 設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL (075) 462-8888(代) FAX (075) 462-8998



世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com



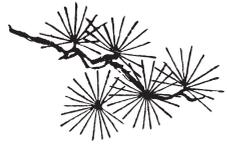
大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達
香老舗 松榮堂

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店 / 札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

A^{DACHI} 足立電気工業株式会社

〒601-8045

京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する...

京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行
 京都銀行

JTB

感動のそばに、いつも。

(株)JTB西日本 団体旅行京都支店

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 AYA 四条烏丸ビル2F

TEL.075(284)0173 FAX.075(284)0153

担当：酒井 健次 (営業時間 9:30~17:30 / 土・日・祝日休業)

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022
東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

大切な資産を、ご家族へ確実につなぐために。
生前贈与や万一の備えが簡単にできる三菱UFJ信託銀行の商品を
どうぞご利用ください。

見本保証・管理手数料無料

大切な方の未来を支える、次世代支援信託。
「選んで満足」の声が増えています。



贈与信託
「おくるしあわせ」



生前贈与信託
「まごよこぶ」



信託型遺言
「ずっと安心信託」

三菱UFJ信託銀行 東京支店 信託部 信託課
TEL.075-211-7168 東京都中央区新富1-1-1 三菱UFJ信託銀行ビル
信託部 信託課 信託課長 佐藤 隆之助

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
自園茶農林水産大臣賞30回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年乃翠

御薄茶 常光



大本山相国寺御用達

宇治久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)200909
●西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)2330909
●ジエリアル京都伊勢丹店 地下一階
●京都高島屋店 地下一階 和菓子売場
【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話(075)221-0934番 振替京都01090-4-3476

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



URL: <http://matsunishara.com>



享保十一年創業 清酒「五紋神威」醸造元

松井酒造株式会社

京都府京都市西京区西陣河原町1の6 電話 075-1771-0246



秋田 白川 雲梯呼
静かを行きたい
せせらぶを聴く

鮎割烹 たつみほし

〒605-0884

京都市東山区八坂新地陸本町371番地4

電話 (075) 521-1184

営業時間 17:30-22:30(土21:30)

定休日 水曜日

相国寺 東京別院 施工

www.mizunuma-inc.co.jp

水澤工務店 東京都江東区大島5丁目番地1号 TEL 03-3641-7111



皆さまのお役に立てる、

コインパーキング。

着実に、一步一步。

キョウテク株式会社

本社

TEL 075-415-0100 FAX 075-415-0089

〒603-8143 京都市北区小山上総町10番地1 キョウテク北大路ビル2F

第52回 京の冬の旅

非公開文化財特別公開

「秘められた京の美をたずねて」

第52回「京の冬の旅」のテーマは「明治維新150年記念」と「西郷隆盛」。

平成30年(2018)は近代日本の幕開けとなった慶応4年(1868)の「明治維新」から150年。また、西郷隆盛を主人公とした大河ドラマ「西郷どん」放映にちなんで、幕末・明治維新や西郷隆盛ゆかりの寺院など15ヶ所で、通常非公開の文化財を期間限定で特別公開します。

◆公開期間 平成30年1月6日(土)～3月18日(日)

*一部公開期間が異なります。詳しくは京都市観光協会にお問い合わせください。

◆公開時間 午前10時～午後4時(受付終了)

*泉涌寺 舍利殿は、午前9時～午後4時(受付終了)
*東寺 五重塔は、午前9時～午後4時30分(受付終了)
*常林寺は、毎週日曜日午前10時～午後1時 拝観休止

◆料金 金 一ヶ所 600円(いずれも団体割引あり) *泉涌寺 舍利殿、東寺 五重塔は800円(通常公開部分含む)

◆問合せ 京都市観光協会 TEL 075-213-1717 <http://www.kyokanko.or.jp>

(都合により、寺宝等展示物の内容が変更となる場合がございます。最新の情報は京都市観光協会ホームページで随時更新されます。)

しょうこくじ はつとう ほうじょう
相国寺法堂・方丈
「鳴き籠」で知られる日本最古の法堂」

◆1月10日(水)の公開
京都駅から地下鉄烏丸線「今出川駅」下車、
①番出口から徒歩約5分

相国寺派の他に12カ所が公開されます。

東福寺 禅堂・経蔵

東福寺 即宗院

妙心寺 三門

妙心寺 東海庵

宝鏡寺

常林寺

清水寺 成就院

泉涌寺 舍利殿

伏見稲荷大社

御茶屋

妙覺寺

東寺 五重塔

大黒寺

しょうこくじ ほうこうじ
相国寺豊光寺
京の冬の旅初公開

明治期の傑僧ゆかりの寺
閑寂の庭園

◆1月6日(土)の公開
京都駅から地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、
①番出口から徒歩約7分

しょうこくじ りんこういん
相国寺林光院
京の冬の旅初公開
明治維新・西郷隆盛

鶯宿梅の咲く
薩摩藩ゆかりの寺

◆1月6日(土)の公開
京都駅から地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、
①番出口から徒歩約5分

相国寺 春の特別拝観

京都今出川
鳴き龍の寺

平成30年3月24日(土)～6月4日(月) 拝観時間：午前10時～午後4時

※4月8日(日)は、法要・行事のため拝観時間に一部変更があります。

拝観場所：法堂・方丈・浴室

拝観料：一般・大学生800円／65才以上・中高生700円

※団体割引有り ※法要・行事のため予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。



法堂内「蟠龍図」



浴室「宣明」



方丈庭園「九重桜」



山水図

惟肖得巖賛

伝周文筆

室町時代(十五世紀)

慈照院蔵

画中に静寂が満ちる——。索莫としてどこか物悲しげなこの風景。水辺に書斎が描かれ、書斎図という。十五世紀初頭より京五山禅林の文雅の場で流行した。詩を寄せる惟肖得巖(一三六〇～一四三七)は、四代將軍足利義持の特旨により相国寺内の大衆への学藝教育の任を託された高僧。本図は相国寺山内で制作され今に伝わる貴重な一軸と考えられる。

画面下方左手より一筋の道が続く。それは竹と梅が生える岩の向こう側の書斎へと私たちを導く。書斎の主はいずこに。水の波紋が描かれ、

流れゆく水音が画中に聴こえる。左方には高く聳える巨大な崖。

惟肖得巖の詩は次のように詠む。「絶壁は蒼黒く聳え、左右の岸辺を繋いでいる。書斎の欄干は海を包むようにめぐり、池の景色をみているようだ。白い鷗が水上を悠然と二羽で飛び去ってゆく。ひさしの満開になった梅のことなど知らんぷりで」。書斎には当時の禅僧たちの隠遁への憧れが投影される。鷗には送別の意味が暗示される。室町の世の禅僧の心の風景がここにある。

作品解説／承天閣美術館 副館長・学芸統括 高橋範子



※この作品は展覧会「山水—隠谷の声 遊山の詩」に展示されています。

承天閣だより

Jotenkaku Museum

現在の展観

相国寺 金閣 銀閣の名品より

山水—いんこく 隠谷の声 こえ 遊山ゆうさんの詩 うた

平成29年12月16日(土)～平成30年3月25日(日)



—— 山水の音が聴こえる
—— 山水の詩が聞こえる

相国寺派寺院が所蔵する〈山水〉の名品群を三つのテーマで構成。国宝一点、重要文化財六点、重要美術品二点を含む約八十点を一堂に会します。

I、山水—隠谷の声(いんこくのこえ)

中世の禅の精神に深く結びつく山水の世界を展観。「隠谷の声」文字通り奥深い谷にひそむ山水の声を水墨の画中に探し求めます。

II、山水—遊山の詩(ゆうさんのうた)

遊山とは文字通り山に遊ぶこと。「金閣寺遊楽図屏風」など、公家や庶民が楽しんだ近世の遊興の場としての山水観を披露します。

III、山水—臥遊のひととき(がゆうのひととき)

臥遊とは、地に伏せながら山水の景観に心遊ばせること。屏風の作品群が繰り広げる雄大な景色に囲まれ、臥遊のひとときを！

次期展覧予定 平成30年4月1日(日)～6月24日(日)

「春はる 燦さん 燦さん—清せい 婉えん 峭しょう 雅やの系譜(仮)」

名品で春を謳歌します。

相国寺承天閣美術館学芸部

於 高知県立歴史民俗資料館



商山四皓山水図(三幅対) 狩野元信筆 室町時代16世紀

《白隠禅師二五〇年遠諱記念》

「今を生きる 禅文化—伝播から維新を越えて—」展開催

平成二十九年十月十四日～十一月二十六日まで、高

知県立歴史民俗資料館に於いて「今を生きる 禅文化—伝播から維新を越えて—」展が開催された。本展は、

京都をはじめ県内外の禅宗寺院の珠玉の名宝約一〇〇点を集め、現代に息づく禅文化を紹介し、土佐が生んだ高僧、義堂周信や絶海中津の作品も並んだ。相国寺承天閣美術館からは、「重要文化財 毘沙門天図 雪舟等楊筆」や「中鶏左右梅図 伊藤若冲筆」他数点を出陳。

十四日の開会式には管長猥下が御出杖された。また同日、記念講演会が開催され、「禅と日本文化」と題し管長猥下が講演をなされた。



高知県立民族資料館 開会式



高知県立歴史民俗資料館 ポスター画像

相国寺承天閣美術館事務局

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

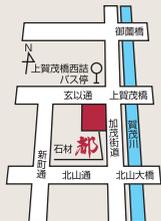


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 電話(075)702-2440
(洛北病院バス停前)
夜 間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

暢神

神を暢の
(王徽之)
心神を和らぐ

カンボジア アンコールトム遺跡 石仏

